

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 書 籍 ■

『上方伝統芸能あんない』	堀口初音 (著)	創元社
『上方のをんな 女方の歌舞伎譚』	片岡秀太郎 - 2世 (著)	アールズ出版
『川上音二郎・貞奴展 音二郎没後一〇〇年・貞奴生誕一四〇年記念』		茅ヶ崎美術館
『狂言Pulse鼓動 和泉流二十世宗家和泉元彌の世界』		ソニー・マガジズ
『ギリシャ悲劇観劇ガイドブック』	山形治江 (著)	れんが書房新社
『近世文学研究事典』	岡本勝+雲英末雄 (編)	桜楓社
『現在映画批評・映画評論 今日に問う』	羽瀨三良 (著)	光陽出版社
『幸四郎的奇跡のはなし』	松本幸四郎 - 9世 (著)	東京新聞
『七代目市川團十郎展 生誕二百二十年によせて』		早稲田大学演劇博物館
『10周年記念近鉄劇場小史』		近鉄劇場
『台東区下町風俗資料館図録 3版』	台東区芸術文化財団 (編)	台東区芸術文化財団

■ 松竹系 3月公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『江戸絵両国八景 荒川の佐吉』	○	○	○	○
	『仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居』	○	○		
	『東山桜莊子 佐倉義民伝』		○		
	『唐相撲』	○	○		
	『小さん金五郎』		○		
平成中村座	『暫』	○	○	○	○
	『一條大蔵譚 檜垣・奥殿』	○	○		
	『舞鶴雪月花』	○	○		
	『傾城反魂香』	○	○		
	『六代目中村勘九郎襲名披露口上』		○		
	『曾我綉侠御所染 御所五郎蔵』	○	○		
平成中村座 (試演会)	『元禄花見踊』		○		
	『一條大蔵譚 奥殿』				
南座(京都)	『おたのしみ座談会』			○	○
	『元禄忠臣蔵 御浜御殿綱豊卿』	○			
	『猩々』				
	『一谷嫩軍記 熊谷陣屋』	○			
	『平家女護島 俊寛』	○			
松竹座(大阪)	『三代目中村又五郎四代目中村歌昇襲名披露口上』				
	『船弁慶』	○			
松竹座(大阪)	関西ジャニーズJr. 春休みスペシャルコンサート2012				

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

(新規登録資料案内 続き)

■ 他社公演資料 ■

宇和島市立南予文化会館	3月	『市川亀治郎宇和島歌舞伎』プログラム
大阪新歌舞伎座	3月	『天童よしみ特別公演』プログラム
かめありリリオホール	2月	『女たちのジハード』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	2月	『三人姉妹』プログラム、台本
国立劇場大劇場	2月	『映像で見る大曲蘇合香一具 前篇』プログラム
	2月	『国立劇場第七〇回雅楽公演 舞楽』プログラム
	3月	『映像でたどる国立劇場の歌舞伎その3』プログラム
	3月	『一谷嫩軍記 流しの枝・熊谷陣屋』プログラム、台本
座・高円寺1	2月	『八百屋のお告げ』プログラム
ザ・スズナリ	2月	『Turning Point分岐点』プログラム
シアタークリエ	2月	『M. クンツェ&S. リーヴァイの世界 2nd Season』プログラム
シアタートラム	2月	『ロマンサー 夜明峠編』プログラム
スペース・ゼロ	2月	『RE-INCARNATION』プログラム
浅草寺境内	3月	『三社祭斎行700年祭船渡御奉納舞踊 清元三社祭』プログラム
中野テアトルBONBON	2月	『無限遠点』プログラム
俳優座劇場	2月	『芝居二態<<落語芝居・漫才芝居>>』プログラム、台本
博多座	3月	『時代劇版101回目のプロポーズ百老通目の恋文』プログラム、ポスター
三越劇場(日本橋)	2月	『パルレ 洗濯』プログラム
		『OSK日本歌劇団 レビュー』プログラム
明治座	3月	『石川さゆり特別公演』プログラム
ル テアトル銀座	2月	『ビューティフル・サンデー』プログラム

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『おかえり、はやぶさ』	○	○	○		
『スーパー・チューズデー ～正義を売った日～』	○	○	○		

■ 映画プログラム ■

『長ぐつをはいたネコ』	『桜蘭高校ホスト部』	『センター・オブ・ジ・アース2 神秘の島』
『シャーロック・ホームズ シャドウ ゲーム』		『日本列島 いきものたちの物語』
『STAR WARS エピソードI/ファントム・メナス 3D』		『トロール・ハンター』
『ヒューゴの不思議な発明』	『ドラゴン・タトゥーの女』	『ライアーゲーム 一再生一』
『映画ドラえもん のび太と奇跡の島 ～アニマル アドベンチャー～』		『アンダーワールド 覚醒』
『TIME/タイム』	『メランコリア』	『マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙』
『僕等がいた 前篇』	『世界最古の洞窟壁画3D』	『忘れられた夢の記憶』
『逆転裁判』	『おとなのけんか』	『ヤングニヤダルト』
『ペントハウス』	『POV (ピーオーヴィ) ～呪われたフィルム～』	

■ 演劇雑誌 ■

- 『アート・リサーチ』2012年3月(12号)
- [[特集] 論文 前田耕作 細井浩一 映画産業における寡占の形成と衰退 日米における「撮影所システムの黄金時代」の比較を通じて/松葉涼子 役者似顔春本『姿名鏡』役者似顔の考証と出版の背景]
- 『あぜくら』平成24年3月号
- 『Bandaly』2012年(11号)
- [[特集] 小出久美子 絵金の芝居絵屏風と上方の芝居絵の影響関係についての再論考/阿部久瑠美 1970年、〈トボス〉としての新宿 プログラム・ピクチャーに描き出された新宿の表象分析]
- 『Bunkamura magazine』2012 MARCH No. 83
- 『舞台芸術通信 PROBE』2012年3月6号 [[特集] 函館の演劇]
- 『舞踊芸術』2012年4月号 [[特集] 藤間毬宝 舞踊生活七十年 毬宝派藤間流 第二十七回「毬の会」]

(新規登録資料案内 演劇雑誌 続き)

『Confetti』2012年APRIL Vol. 88、MAY Vol. 89

『Confettiかわら本』2012年4月号Vol. 88

『伝統文化新聞』2012年(70号)

『演劇ぶっく』2012年4月号

〔《特集》読者が選ぶ! えんぶチャート2011「舞台」「俳優」部門発表!! / 俳優部門1位 松本潤〕
『悲劇喜劇』2012年4月号

〔《特集》ピーター・ブルック 《掲載戯曲》『パーマ屋スマレ』鄭義信 / 『負傷者16人』エリアム・クライエム〕

『ひろば』2012年121号

『邦楽の友』平成24年4月号

『ほうおう』2012年5月号

〔《インタビュー》市川染五郎 《特集》新派四季暦『華岡青洲の妻』の楽しみ方〕

『歌舞伎美人だより』2011年9~12月号

『喝采』2012年6月〔《特集》六月博多座大歌舞伎〕

『国立演芸場公演ガイド』平成24年4月号

『ミュージカル』2012年3月-4月号

〔《特集》2011年 ミュージカル・ベストテン選出 / 『MY ONE AND ONLY』〕

『News Letter』2012年3月13号

『日本芸術文化振興会ニュース』平成24年4月号

『日本照明家協会雑誌』2012年3月号

〔《インタビュー》大野洋さんに聞く 《特集》ここまで来たLEDライト!! TVドラマ制作における使用例 / 富士五湖文化センター(ふじさんホール) / 2012・新しい発見を求めて 劇場街を歩く〕

『日本舞踊』64巻4月号

〔《特集》秘曲・新曲サロン 東明流 花の心 / 舞踊写真教室 舞踊小曲 深川しづれ(上)〕

『大向う』平成24年4月号

『ラ・アルプ』2012年4月号

〔《特集》『ユタと不思議な仲間たち』東北の子どもたちに勇気と感動を / ACTOR'S TIME vol. 28 阿久津陽一郎 / 『アイダ』いよいよ開幕!〕

『ラ・アルプ』2012年特別号〔《インタビュー》演出家・浅利慶太「劇団四季創立六十周年に向けて」〕

『シアターアーツ』2012年春(50号)

〔《特集》年間総括2011 [座談会] ここから演劇をどう始められるか [発表] 2011ベスト舞台・ベストアーティスト 《インタビュー》鄭義信〕

『シアターガイド』2012年5月号

〔《特集》「ロミオ&ジュリエット」佐藤健&石原さとみ 賀来賢人&菅田将暉&尾上寛之 / NODA・MAP「THE BEE」 / 東北発~演劇が結ぶ人・場所・絆 その2〕

『テアトロ』2012年4月号

〔《特集》わたしもあなたも同期生! / 第23回テアトロ新人戯曲賞発表! / 【追悼】淡島千景さん 《掲載戯曲》「どこまでも続く空のむこうに」阿藤智恵 / 「満ちる」竹内統一郎〕

『the座』2012年72号〔「闇に咲く花」〕

■ 映画雑誌 ■

『ドラマ』2012年4月号

〔《特集》第3回TBS連ドラ・シナリオ大賞受賞作発表 《掲載シナリオ》『キルトの家』山田太一〕

『映画テレビ技術』2012年4月号

〔《特集》映画『明日に架ける愛』香月秀之監督に聞く / 被災地を撮る 土曜ドラマスペシャル「それからの海」撮影報告 / 映画録音の基礎知識 / National Film Board of Canadaの活躍〕

『映画秘宝』2012年5月号

〔《特集》超能力映画(秘) ファイル! / 「SR サイタマノラッパー」シリーズ徹底検証!〕

『映画論叢』2012年(29号)

〔《特集》ベンヤミン・クリステンソン デンマークの巨匠 / プログラムにみるB級映画社 マイナー映画は第二京極で 石割平 / 高宮敬二「やりっぱなしの人生」完結篇 《インタビュー》女優・中田康子〕

(新規登録資料案内 映画雑誌 続き)

『衛星劇場プログラムガイド』2012年4月号

『キネマ旬報』2012年3月下旬号

[[特集]] ジョージ・ルーカス 1万語の35年史「STAR WARS エピソード1/ファントム・メナス3D」/驚異のライト&マジック スコセッシ、はじまりの映画へ「ヒューゴの不思議な発明」]

『キネマ旬報』2012年4月上旬号

[[特集]] みんな森田芳光が好きだった「僕達急行 A列車で行こう」/第84回アカデミー賞、徹底討論! /アンゲロプロスのほうへ/3月11日、あの日を経て/旧作を見直す、旧作に見出す]

『京橋映画小劇場 KYOBASHI-ZA』No. 23

『NFCカレンダー』2012年4月号

『日経エンタテインメント!』2012年4月号

[[特集]] 世代を超えて愛される スーパーヒーロー列伝/ヒットメーカー・オブ・ザ・イヤー]

『日経エンタテインメント!』2012年5月号

[[特集]] ニコニコ動画超全貌&You To beの全貌/GW映画2強対決『テルマエ・ロマエ』VS『宇宙兄弟』/春のドラマは脚本家に注目]

『ロケーションジャパン』2012年4月号

[[特集]] 生田斗真『僕等がいた』/堀北真希『梅ちゃん先生』/田中麗奈『種まく旅人~みのりの茶』/春のワクワク最前線 in 東北]

『SCREEN』2012年5月号

[[特集]] 第84回アカデミー賞のすべて/この夏見られる超大作20連発!/2012GW映画全部見せます!/クロエ・グレース・モレッツ/「タイタニック」スペシャル]

『シナリオ』2012年5月号

[[掲載シナリオ]] 『KOTOKO』塚本晋也/第21回新人シナリオコンクール(特別賞 大伴昌司賞) 最終審査結果発表:[入選]『真冬の出来事』木村宏太、[大伴昌司賞]『軍律きびしい中なれど』小谷香織]

『シナリオ教室』2012年4月号

[[特集]] 第5回「富士山・河口湖映画祭 シナリオコンクール」受賞作発表/第3回「科学ドラマ大賞」結果発表]

『シネフェックス』2012年April No. 24

[[特集]] 「リアル・スティール」「猿の惑星:創世記(ジェネシス)」 「ヒューゴの不思議な発明」]

『松竹(社報)』2012年(168号)

『TVガイド』2010年6/11号、6/18号、6/25号、7/9号、7/16号、7/23号、7/30号、8/6号、8/13号、8/20号、8/27号、9/3号、9/10号、9/17号、9/24号、10/1号、10/8号、10/15号、10/22号、10/29号、11/5号、11/12号、11/19号、11/26号、12/3号、12/10号、12/17号、2010年12/18-2011年1/10号

2011年1/14号、1/21号、1/28号、2/4号、2/11号、2/18号、2/25号、3/4号、3/11号、3/18号、3/25号、4/1号、4/8号、4/15号、4/22号、4/29号、5/6号、5/13号、5/20号、5/27号、6/3号、6/10号、6/17号、6/24号、7/1号、7/8号、7/15号、7/22号、7/29号、8/5号、8/12号、8/19号

『特ラ連レポート』平成24年124号、125号



休館のお知らせ

2012年5月1日(火)は休館いたします

ゴールデンウィーク中は

4月28日(土)~5月1日(火) 休館

5月2日(水) 開館

5月3日(木)~5月6日(日) 休館

となります

「おかえり、はやぶさ」のプログラムも、閲覧可能です。3Dめがね付で飛び出す宇宙空間のイラストが楽しめます！

第20回 松竹大谷図書館所蔵資料展示 「宇宙開発」映画展

展示期間：2012年3月26日～4月25日 於：松竹大谷図書館閲覧室

今月の閲覧室展示では、現在公開中の映画『おかえり、はやぶさ』に連動して、「宇宙開発」をテーマとした映画の資料を並べています。「宇宙開発」をテーマとした映画は様々ありますが、今回は、アポロ11号が月面着陸に成功した昭和44（1969）年以前に製作された映画はフィクションから、それ以降に製作された映画はノンフィクション、あるいは記録映画の中から選んでみました。小さな展示ケースいっぱい広がった宇宙をお楽しみ下さい。

■「宇宙開発」映画関連資料一覧&映画あらすじ■

1. 『HAYABUSA -BACK TO THE EARTH-帰還』（2009年、日本、上坂浩光監督）プログラム
2003年5月、小惑星イトカワの表面岩石の採取を目的に打ち上げられた探査機「はやぶさ」は数々のトラブルに見舞われながらも、2010年6月13日、奇跡的に帰還した。はやぶさが帰還する前に制作された、はやぶさのミッションを解説するプラネタリウム用のフルドーム映像を平面スクリーン用に再編集し、帰還シーンを加え劇場公開したものの。
2. 『宇宙大征服』（1968年、アメリカ、ロバート・アルトマン監督）プレスシート
アメリカとソ連の宇宙開発競争の加熱ぶりをシニカルに描いたドラマ。1960年代、ソ連が有人宇宙船を月に向けて打ち上げたとの報に焦ったアメリカはアポロ計画を一旦中止、月ロケット発射計画「ピルグリム」を始動させるが、その実態は飛行士の安全面もまるで保障できないような危険なミッションだった。実際にアポロ11号が月面着陸を成功させる1年前に製作された作品。
3. 『宇宙（そら）へ。』（2009年製作、イギリス、リチャード・デイル監督）プログラム
1958年のNASA設立から50年、宇宙開発に全力を注いできた職員と宇宙飛行士たちの挑戦と奮闘を描き、NASAの壮絶な歴史の全貌を明らかにするドキュメンタリー。NASAの総プロジェクトを克明に記録したフィルムをもとに、打ち上げに失敗したロケットや船内火災など、死と隣り合わせのミッションに挑む人々に迫る。
4. 『月世界征服』（1950年、アメリカ、アーヴィング・ピシエル監督）プログラム
月世界が空想より科学技術の延長線で考えられるようになった1950年。アポロ11号により人類が初めて月面に着陸する約20年前に月面の世界を一足先にスクリーンに出現させた映画。ロバート・A・ハインラインの小説を原作としているが、製作者ジョージ・パルはプラネタリウムでやっていた「月への旅」というショーを見てこの映画の製作を思いついたとのこと。1950年度アカデミー賞特殊効果賞を受賞。
5. 『ライトスタッフ』（1983年、アメリカ、フィリップ・カウフマン監督）
プログラム、スチール：チャック・イエーガー（サム・シェパード）
人類初の有人宇宙飛行をめざす男たちをドキュメンタリー・タッチで描いた感動のドラマ。激化するソ連との宇宙開発競争の中、有人宇宙ロケットの実現を目標として掲げたアメリカでは、空軍パイロットの中でも特に正しい資質「ライトスタッフ」を持つ男たちが宇宙飛行士の候補として選ばれた。仲間たちが次々に宇宙飛行士を目指し英雄となる一方で、空軍に留まり飛行機による音速飛行の限界にこだわる一人の男がいた。史上初めて音速の壁を越えた空軍パイロット、チャック・イエーガーや初期の宇宙飛行士達など実在のパイロットの生き様を描く。本物のチャック・イエーガーもバーテン役で出演。
6. 『アポロ13』（1995年、アメリカ、ロン・ハワード監督）プログラム、スチール：ジム・ラヴェル（トム・ハンクス）
1970年、月面探査を目的とするアポロ13号が月へ向けて打ち上げられた。しかし順調な航行中、酸素タンクが爆発する事故が発生。月面着陸はおろか、地球への帰還も困難な事態に見まわれる。乗組員たちは地球へ戻る為に試行錯誤し、一方の管制センターでも彼らを無事地球に帰還させようと様々な対策を講じるが、13号内の酸素と電力は刻一刻と失われていく…。実話を基にしたドラマ。
7. 『遠い空の向こうに』（1999年、アメリカ、ジョー・ジョンストン監督）プログラム
1957年、ソ連は人類初の人工衛星スプートニクの打ち上げに成功。その美しい軌跡を、ウエスト・ヴァージニア州の炭坑町コールウッドで見ていた青年ホームーは、自らもロケットを打ち上げるべく、級友3人とともに本格的なロケット作りに取りかかった。のちにNASAのロケット・エンジニアになったホームー・ヒッカムの自伝を基に、ロケットへの夢に賭けた若者たちの挑戦を描いたドラマ。
8. 『月のひつじ』（2000年、オーストラリア、ロブ・シッチ監督）プログラム
1969年、アポロ11号による人類初の月面着陸の様子は衛星によって生中継され、その瞬間世界中で7億人がテレビに映った月面歩行の映像に釘付けになった。しかしこの歴史的中継の裏に、人より羊の方が目に付くオーストラリアの小さな町に建てられた巨大パラボラアンテナの活躍があった事は知られていない。かつてない巨大プロジェクトを支えた人々の実話に基づくドラマ。
9. 『ザ・ムーン』（2007年、イギリス、デイヴィッド・シントン監督）プログラム
1969年、アポロ11号が人類史上初めての月面着陸に成功、以来、1972年のアポロ17号まで、9機のロケットが月へと向かい、計12人の人間が月に降り立った。人類が月面着陸に成功してより40年目に、NASAの宇宙飛行士や技術者たちが撮影した貴重な映像を中心に、存命の宇宙飛行士たちのインタビューを交えて当時の高揚した現場の雰囲気スクリーンに再現する。

【はやぶさ関連年表】

- 2003(平成15年)5月**
鹿兒島宇宙空間観測所よりM-Vロケットで打ち上げられ、太陽周回軌道に投入される。
- 2003(平成15年)8月**
目的の小惑星がイトカワと命名される。
- 2004(平成16年)5月**
イオンエンジンを併用した地球スイングバイ(地球の引力を利用した推進方向の変更)に世界で初めて成功。イトカワとほぼ同じ軌道にのる。
- 2005(平成17年)7月**
小惑星イトカワの撮影に成功。その画像をもとに軌道修正が行われる。
- 2005(平成17年)11月20日**
小惑星イトカワへ1回目のタッチダウン。(後に30分間着陸し再び離陸していたことが確認される)。地球と月以外の天体からの、世界初の離陸に成功。6日後、2回目のタッチダウンにも成功。
- 2010(平成22年)6月13日**
サンプル容器が収められたカプセル、パラシュートにより豪州に着陸。翌14日に回収され、18日には日本到着。
『HAYABUSA -BACK TO THE EARTH-帰還』
- 2010(平成22年)11月16日**
カプセル内から回収された岩石微粒子のサンプルの大半がイトカワのものと判断されたと発表される。



左から)■『月世界征服』プログラム■『はやぶさ HAYABUSA BACK TO THE EARTH—帰還』プログラム■『ライトスタッフ』プログラム、スチール■『宇宙大征服』プレスシート■『アポロ13』プログラム、スチール■『遠い空の向こうに』プログラム■『ザ・ムーン』プログラム■『月のひつじ』プログラム■『宇宙(そら)へ。』プログラム

【宇宙開発関連年表】

- 1957(昭和32年)10月** ソ連が初の人工衛星スプートニク1号打ち上げに成功。続いて11月には犬を乗せた2号の打ち上げに成功。**『遠い空の向こうに』**
- 1958(昭和33年)1月** 米国、人工衛星エクスプローラー1号の打ち上げに成功。
- 1958(昭和33年)10月** NASA(アメリカ国立航空宇宙局)が設立。**『宇宙(そら)へ。』**
- 1961(昭和36年)1月** 米国、マーキュリー計画によりチンパンジーを乗せて約16分の宇宙飛行に成功。
- 1961(昭和36年)4月** ソ連のユーリ・ガガーリンがポストーク1号で人類初の地球軌道周回飛行に成功。
- 1961(昭和36年)5月** 米国ケネディ大統領、60年代のうちに人間を月に着陸させ、無事帰還させるとの声明を発表。
- 1961(昭和36年)5月** 米国のアラン・シェパード、フリーダム7で10数分間の弾道飛行に成功。
『ライトスタッフ』
- 1962(昭和37年)2月** 米国のジョン・グレン、フレンドシップ7号で米国人初の地球軌道周回成功。
- 1963(昭和38年)6月** ソ連のテレシコワ、史上初の女性宇宙飛行士として地球周回成功。
- 1965(昭和40年)3月** ソ連のレオーノフ、ボスホート2号により、人類最初の宇宙遊泳成功。
- 1965(昭和40年)6月** 米国のホワイト、ジェミニ4号により、米国人初の宇宙遊泳成功。
- 1967(昭和42年)1月** 米国のアポロ1号、発射台での火災事故により宇宙飛行士3人が殉職。
- 1969(昭和44年)7月** 米国のアポロ11号、月面着陸成功。アームストロングによる人類初の月面歩行。
『月のひつじ』、『ザ・ムーン』
- 1970(昭和45年)4月** 米国のアポロ13号、航行中の爆発事故により司令船使用不能。月着陸船で地球に無事帰還。**『アポロ13』**
- 1971(昭和46年)4月** ソ連、世界初の宇宙ステーション・サリュート1号の打ち上げ成功。6月には3人乗りのソユーズ11号を打ち上げ、サリュートへのドッキングに成功。
- 1971(昭和46年)7月** 米国のアポロ15号により送り込まれた月面車で30kmほど有人月面走行成功。
- 1972(昭和47年)12月** 米国のアポロ17号、月面着陸成功。計6回の月面着陸で12人の宇宙飛行士を月に送り込んだアポロ計画終了。(アポロ宇宙船は75年まで使用)
- 1973(昭和48年)5月** 米国初の宇宙ステーション・スカイラブ打ち上げ成功。1974年2月まで3回に渡って乗組員を受け入れる。(1979年7月に大気圏に突入し消滅)
- 1975(昭和50年)7月** 米国のアポロ18号とソ連のソユーズ19号が宇宙でドッキングする。(アポロ・ソユーズテスト計画)
- 1981(昭和56年)4月** 米国、スペースシャトル・コロンビア号、初飛行。以降2011年7月まで5機のスペースシャトルにより135回の飛行が行われた。